

事業番号	32
------	----

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	ジュニアスポーツ育成事業				担当課	スポーツ振興課	
事業期間	開始年度	～	終了予定年度		担当係	スポーツ振興係	
総合計画	めざすまちの姿	1 人が育つまち					
	目標	⑥ 学習・スポーツ活動の環境を充実する（生涯学習・スポーツ振興）					
	成果指標	市民のスポーツ実施率		中間目標 (H27)	52%	最終目標 (H32)	57%
予算区分	一般会計	10 款 教育費	7 項 保健体育費	2 目 スポーツ振興費			
	細事業	308 スポーツ活動推進費（ジュニアスポーツ育成事業）					
位置づけ	関連計画						
	根拠法令						
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（						
対象(誰のため)	<input type="checkbox"/> 全市民 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他						
事業の目的(何のため)	生涯スポーツの基礎の確立及び競技力の向上						
内容(概要)	<p>専門の部活でスポーツ活動をしていない中学生がスポーツに取り組み、基礎練習と個々の技術の向上によって、スポーツ活動の充実を図っている。</p> <p>活動は、原則第2・第4土曜日を中心に行われており、競技種目は、野球・サッカー・バレーボール・柔道・ソフトテニスの5種目あり、約240名の中学生が参加している。</p>						
これまでの改善・見直しの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年度実施種目を問うアンケートを実施。</li> <li>平成21年度実施種目等を問うアンケートを実施。</li> </ul>						

2. コスト

(単位:千円)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費
事業費	予算	1,400	1,400	1,400	(内訳)
	決算	1,230	1,042		物件費(消耗品費) 172
財源内訳	国庫支出金				物件費(委託料) 870
	県支出金				1,042
	地方債				
	その他				
	一般財源				
職員人件費	1,101	1,137	1,045	人工	0.1 人

### 3. 事業の評価

#### 事業の実施状況

内容		単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率	
活動指標	参加生徒数	人	目標	300	300	300	81%
			実績	253	243		
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
平成23年度 活動内容	ジュニアスポーツクラブ委託料 (委託件数：5種目7件 金額：870千円)						
課題・問題点 となった事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や種目によって、参加者のばらつきが見られる。</li> <li>・新居地区においては、スポーツクラブの意識が芽生えていない。</li> </ul>						
どう対処したか	参加者の少ないクラブについては、各学校に再募集の依頼を行った。						
改善点	参加者の少ないクラブ、応募のなかったクラブについては、指導者、学校間で話し合い、見直しをしていく。				効果額 H24-H23 (千円)		
自己評価	事業目的の 達成状況	野球の新居会場を除き、ほぼ目標を達成できた。					
	※必要性 事業を廃止・休 止したときの影響	スポーツをするきっかけの場を失い、スポーツの持つエネルギー（生活の活力）を青少年健全育成に役立てることができなくなる。					
	判定	<b>B 改善</b>	事業内容の見直しが必要	事業主体	市		
	判定理由	生涯スポーツの基礎を確立できる「ジュニアスポーツ育成事業」を中学生を対象に推進することによって、明るい人格形成や競技力向上が期待できるため継続して実施していく。					
今後の方向性	中学生が参加しやすい種目を精査しながら、より多くの人たちが参加できる体制を構築する。						